

鉄砲洲神社 素読論語 解説
(平成 24 年 1 月 20 日)

子罕 第九

【19】子曰く、之に語^しげて情^{これ}らざる^つ者は、其^{あこた}れ回^{もの}なるか。

孔子が言うには、色々暗唱や教訓を話している時に、あくびなどもせず、ちっとも飽きずに眼を輝かして真剣に聞いているのは顔回だけ。先生の話の深くまで見えるのではないのかと、その様な感じで顔回は聞いている。

人様の話を聞いている時に、その人の人格が滲み出てくるような話しは聞いていて楽しくなります。学者の話、文章は味も素っ気もなく、自然とあくびも出るし、つまらなくて帰りたくなるけれど、我慢している。せっかく先生達の話聞くのにもったいないなと思います。

昔、先輩から聞いた話ですが、加藤常賢先生の話聞かせて戴いた時に、加藤常賢先生が大きい講堂で講釈をしている時、先生が下を向いて講義をしていましたが、学生が教室の後ろで抜き足差し足で教室を出ようとしているのをフッと気配を感じ、顔をあげ「待て！」と一括をしたら学生がピタと止まって動けなくなり、講義終了の鐘が鳴る最後まで動かなかったそうです。先生は自信をもって気分良く話をしている時に逃げようなんて「けしからん」と声をかけ、学生も分からない様に教室を出ようと思っていたが、その一括で動けなくなり止まってしまった。気を発して鳥が飛ぶのを止める様なものです。こういうのは氣あてに属するものだと感じました。

【20】子 顔淵^{しがんえん}を謂^いいて曰く、惜^{いわ}しいかな。吾^{われ} 其^その進^{すす}むを見^みるなり。未^{いま}だ其^その止^やむ

を見^みざるなりと。

孔子が 70 歳の時に顔淵が 32 歳で亡くなりました。孔子から見て自分の後を継ぐのは顔淵だと思いこんでおり、顔淵が自分より先に死んでしまったことによって思想学問が途中で止まり、自分も一緒に滅びた様なもので実に残念だという事で、このような言葉が出て来ました。

孔子が顔淵に対して批評しました。顔回が早く死んだのは実に惜しいことである。顔回は学問を必死に勉強し、日に日に進歩するのを良く見ていた。嫌だと言って途中で止めるところを見た事がない。常に学問に勤しみ素晴らしい人物だったので、その人間が死んでしまったのは、天が私を見離したようなもので、残念だ。

私のところに色々なコンサルティング会社から手紙が来ます。開けて見ると後継者養

成の秘訣があり、お金を払えば社長・会長業をスムーズにバトンタッチができます。後継者をつくるのは大変だからお金を払って教わりなさいという手紙です。

顔淵を先に亡くした孔子が嘆ているのを読むと、後継者を育てるのは大変な事だと二千何百年前も今も大して変わらないのを感じました。

【21】子曰く、^{しいわ}苗にして^{なえ}秀で^{ひい}ざる^{ものあ}者有るかな。^{ひい}秀でて^{みの}実ら^{ものあ}ざる者有るかな。

人間を苗に例えました。苗が段々大きくなってくると、色々な虫がつき、花が咲かなくて駄目になるのは往々にあります。人間も若い時は優秀だと思っけていても、大人になってきたら秀才というものが無くなってしまい、中年になって学んでいても大成する、または人格も完成するかと思っけていても、苗と同じでそうではないものもある。途中で、飲む討つ買うに引かかたりして止めてしまうものもある。若い時に素晴らしい人だと思っけても大人になると普通の人と云うのは良くある。

これは我が身に置き換えて考える事と、周りの良さそうな連中を見て判断基準にする
と良いなと思っけています。

【22】子曰く、^{しいわ}後世^{こうせいおそ}畏るべし。^{いづく}焉んぞ^{らいしゃ}来者の^{いま}今に^し如かざるを^し知らんや。^{しじゅうごじゅう}四十五十に

して^き聞こ^なゆること^こ無きは、^{また}斯れ亦^{おそ}畏るるに^た足らざるのみ。

孔子が言うには、自分より後から生まれた者はおそろしい。これから世に出て来る人達が、現在の自分と比べて、自分よりさらに素晴らしいものになれないなんて誰が言えようか。この人の将来は誰もまだ分からない。四十五十にして世間に名前が聞こえてこない事は、あまり氣にする事はない。したがって四十五十代で努力をしまししょう。四十五十にして聞こえたけれども、危ない事をやっていたら大成はしない。